

インシデントレポート

作成日 2023 年 11 月 27 日

所属：フラットフラット (A 公認スクール)
会員番号 641 楠 項太 (アドバンストシーガイド)

所属：パドルクエスト パドリングスクール (A 公認スクール)
会員番号 824 堀川臣樹 (アドバンストシーガイド)

【ツアー内容】

企画：パドルクエストとフラットフラットのコラボツアー
三浦市の東京湾側菊名海岸より出艇し、三浦半島の南端を廻り相模湾側の和田長浜まで約 20 km ワンウェイツアー。(経験者向け)

ガイド：楠 (フラットフラット)、堀川 (パドルクエスト) 計 2 名

参加者：10 名 (自艇参加 5 名、レンタル 5 名)

【レポート記載のゲスト詳細】

ゲスト A (男性) 年齢 47 歳 身長 170 cm 体重 80kg パドリング技術：初中級
カヤック経験：フォールディングカヤック所有し 5 年ほど、昨年よりパドルクエストにて本格的にシーカヤックを開始。
この日はパドルクエストのレンタル艇 SKUK Romany Sport に乗艇 (Skeg 付き)

ゲスト B (男性) 年齢 64 歳 身長 164 cm 体重 67kg パドリング技術：中級
10 年以上御岳にてリバーカヤックにてパドリング経験あり。東京江東区亀戸のクラブにて月 2 回ほど運河にてパドリングを楽しんでいる。シーカヤックは昨年春からパドルクエストにて本格的に開始。
この日はフラットフラットのレンタル艇 Paddle Coast Fuego に乗艇 (Skeg 付き)

ゲスト C (女性) 年齢 54 歳 身長 158 cm 体重 61kg パドリング技術：初中級
カヤック経験：パドルクエストのスクールに通い出して 1 年弱。体力はあまりないものの向上心も高く、最近技術が向上中であった。
この日はフラットフラットのレンタル艇 Norlite に乗艇 (Rudder 付き)

ゲスト D (男性) 年齢 34 歳 身長 160 cm 体重 58kg パドリング技術：中級
以前からフィッシングカヤックを嗜んでいたが、今年の吾妻湖の JSPA PASSM に参加してからシーカヤックに興味を持ち、フラットフラット、パドルクエストの講習/ツアーに参加している。
この日はフラットフラットのレンタル艇 WFK シメスタ 500 に乗艇 (Rudder 無し)

【当日のツアー計画】

劔崎灯台の前日の風予報では、朝：南西風 5m/s～昼：南西 7m/s～ 夕方：南西 10m/s の予報だった。

そのため事前計画の三浦半島の西側まで行くのを中止。東京湾側の劔崎方面へ。風の変化に注意しながら劔崎の南側を周遊して、半島の東側へ戻るルートに計画変更した。

【当日のツアーの経緯】

午前中は予報より穏やかで、風速 3m/s くらいで安定した海況で、東風埼まで足を延ばし休憩。早めに折り返して、劔崎を超えて直ぐの灯台直下の東側の浜でランチ休憩をした。

休憩の 1 時間に風が強くなり白波が立ち始めた。計画は変更なし。南西風を避けながら、間口漁港の前を通過して、追い波の中を岸沿いに北上し、金田湾も岸沿いに漕いで菊名海岸にもどる予定だった。

【時系列】

- 9:30 フラットフラット事務所前の菊名海岸を出艇
- 10:00 雨崎 通過
- 10:45 劔崎 通過
- 11:15 東風埼 上陸 休憩
- 11:35 東風埼 出艇 (復路スタート)
- 12:00 劔崎 通過
- 12:25 劔崎の東側の浜に上陸 昼食
- 13:20 劔崎灯台へ散歩
- 13:40 劔崎の東側の浜より出艇
- 13:50 ゲスト A 劔崎の東側の浜の東沖 50M の地点で転覆 脱艇 堀川救助開始
- 13:55 堀川、ゲスト A を抱えた状態で北に流されながら戸津浜に向け移動開始
- 14:00 ゲスト B 間口漁港 北側で転覆 脱艇 楠救助開始
- 14:10 ゲスト C (女性) 戸津浜沖の岩礁帯付近で転覆 脱艇 楠救助開始
- 14:20 堀川、ゲスト A を抱えた状態でゲスト C の漂流しているカヤックを回収/牽引開始
- 14:25 楠 戸津浜にて救助活動完了 9 人の安全を確認
- 14:30 堀川、ゲスト A とゲスト C のカヤックを曳航し戸津浜北側の浜に上陸
- 14:35 参加者 10 人全員の安全と装備の流失のないことを確認と休憩
- 14:50 戸津浜北側の浜を出艇
- 15:40 菊名海岸. 全員 着艇

【インシデント事象と対応】

ガイド 2 名（リーダー楠、フォロー堀川）とゲスト 10 名でまとまって出艇。間口漁港に入ってくる遊漁船を躲す為に横風/横波を受けながら東へ少し進んだ。遊漁船が通過後を指針を北へ転進した。

●事象その 1：

劔崎の東側の浜を出艇直後に、ゲスト A が強風下でカヤックを風下側へ旋回させることができず東へ流され始める。堀川がそばに着いてフォローするが進路が変えることができないために、トゥーラインを使用してゲストのカヤックの舳先を風下に向かせる事に成功したが、その直後にゲスト A が風下側にバックスイープを行ったところ、バランスを崩して転覆 脱艇した。すぐにレスキュー活動に入りうねりと風の中で再乗艇をさせたが、ゲスト A は転覆のショックと恐怖心から「腰が抜けた状態」となりパドリングができない状況。再転覆を回避する為にゲスト A のコーミングを堀川が両手で掴み、水を飲ませ落ち着かせる。その直後に間口漁港の遊漁船が 30M 付近まで近づき救助が必要かの打診をされたが、漂流方向と陸地までの距離を確認し救助不要のサインを漁船へ送った。

（遊漁船はその後に間口漁港へ帰還。）その後、ゲスト A にガイド艇のコーミングを両手で掴んでもらい、堀川はゲスト A を横に抱えながら戸津浜方面にパドリングを開始する。堀川のゲスト A の救助の最中、楠は他のゲスト 9 名を誘導し追い波に乗らないようにゆっくり北上し間口漁港の入り口の外側を通過した。

●事象その 2：

もう 1 名のゲスト B が転覆・沈脱（脱艇に手間取り少し海水を飲んでいて。）楠がゲスト B のレスキュー活動にあたる。その間に、追い波で進行方法が定まらないゲストと追い波に対応出来ているゲストが次第に離れてしまった。進行方法が定まらないゲストに口頭で操船を指導して方向を整えた。ゲスト B のアシストレスキューを完了し、ゲスト B 以外のゲスト 8 名に一番近い戸津浜へ上陸を口頭で指示。ゲスト B と並漕しながら、戸津浜へ向かう。

●事象その 3：

戸津浜へ向かった 8 名の一人のゲスト C が転覆・沈脱。楠がレスキュー活動に入る。転覆ポイントが岩礁に近かったため、その場での再乗艇をせず、ゲスト C をガイド艇のバウにしがみつかせ、カウテールでゲスト C のカヤックをけん引し岩礁から移動した。しかし楠がバランスを崩し 2 度転覆、都度ロールでリカバリーするも、その後また転覆し、バランスが取れず沈脱。戸津浜まで約 50m の距離だったので、楠の指示によりゲスト C の近くにいたゲスト D のカヤックに捕まらせ浜にけん引上陸させた。楠は再び岩礁に近づいたため、泳いで 2 艇を引き岩礁を回避。その後ゲスト C のカヤックを放棄し、自艇へ再乗艇し上陸。

楠が戸津浜にてゲスト 9 名の安否を確認。堀川は、ゲスト C の漂流しているカヤックを海上で回収しトゥーラインでけん引しながらゲスト A を抱えて戸津浜の北側に上陸した。

その後、ゲスト全員の安否を再確認。十分な休憩をとり、動揺や疲労が激しい人いないことを確認。また、エスケープポイントから残りのルートは波と風の影響が少ないと判断して、ツアーを継続した。予定より 1 時間ほど遅れてスタート地点に帰着した。

その後、体調を崩している者もないことを確認して、ツアーを終了した。

*ツアー終了後に、劔崎灯台の観測データを見ると、14:00 には 15m/s まで強まっていた。

（昼食後の出艇時の劔崎の東側の浜の前を状況は 6~7m/s、波高 1~1.5m 前後であった。）

【原因】

●事象その1 事象その2について。

①昼食休憩の上陸ポイントの判断ミス

*楠 検証

フィールド：劔崎灯台の東側に上陸した。ここは劔崎灯台を徒歩で見学にいけるポイント。もし南西風が強まっても影響が少ないと思った、しかし半島の南端に位置するため、風が強まると影響で波が高くなる場所だった。またすぐ北に間口漁港があり、13～14時帰港する遊漁船が多いポイントだと認識していた。

気象と海況：事前天気予報で、朝5m/s～午後10m/sという予報だったが実際は朝から微風で昼に上陸するまで穏やかだった。しかし、昼の1時間間に急変し、強風になってしまった。

フィールドと気象の認識が甘かったため上陸ポイントを誤り、午後、リスクのある海況に出艇することになった。

*堀川 検証

パドルクエストのゲスト9名を引き連れてのコラボツアーということで、ツアールートと計画に関しては現地ガイドの楠に一任していた背景があった。前日までの電話でのブリーフィングにて、当日のルートや昼食休憩などの場所は地図上で確認はしていたが、地元（南房総）ではない為に今回のフィールドの特性をしっかりと共有していなかった。

②ゲストの力量の把握ミス

*楠 検証

20km以上漕ぐ経験者向けのツアーだった。ゲストの半数が自艇参加、レンタルのゲストもフラットフラット・パドルクエストにてスクールに複数回参加しているメンバーだった。当日の午前中も、いいペースで漕ぎ進み遅れる者も疲れを見せる者なくグループとしてまとまったツアーメンバーだった。午後、強風に変わり波が高くなったが、600～700m北に移動すれば波も収まる、「そこまで行ければ大丈夫」と考え出艇した。しかし、強い追い風と追い波の海況のもとで、進路の維持が出来ない無きゲストが数名でてきた。うち3名が転覆・沈没してしまった。ゲストの力量の把握が不十分だった。

*堀川 検証

パドルクエストゲスト9名に関しては、前もって身長/体重/年齢とおおまかな経験値（力量）を記載した名簿を楠と共有していたが、一部のゲストには実際の悪化したコンディションにおいて各自の力量を超える状況となってしまった。またゲストAの転覆/脱艇を見た他のゲストが動揺し恐怖心が高まる負の連鎖が起こってしまった。

ゲストAに関しては、技術に関して荒れた状況を苦手とする傾向があることを把握していたが、結果的に不安が的中してしまった。更に安定性のあるラダー付きのレンタル艇を用意すべきであった。

③ レンタルギアの注意点

*楠 検証

ゲスト B が転覆時、脱艇に手間取った件について。レンタルカヤックのゲスト 5 名のうちゲスト B だけがレンタル用のナイロンスプレーを使わず、持参したスプレースカートを_using_していた。レンタルしたフェーゴ LC と持参のスプレーの組み合わせで、フィッティングがタイトで外れにくい可能性がある。

*堀川検証

ゲスト B に関しては、リバーカヤックも保有し流水でのパドリング経験があることから、彼の技術を過大評価していた。他のゲストの兄貴分的な役割を果たしていたことも背景にあった。パドリング歴が長いことで、持参したスプレースカートのサイズに関しても、ツアーの準備時に本人にレンタル艇に試着脱を指示していたが、実際のフィールドでのリアルな転覆では対応できなかったようだ。

● 事象その 3 について

④ 状況判断と指示の遅れ

*楠 検証

楠がゲスト B のレスキューに注力している間、他のゲストを波の中で停滞させてしまった。楠の判断が遅く、戸津浜へのエスケープの指示が遅くなったため、ゲスト C が岩礁に近づき過ぎ転覆に至った。

*堀川検証

剣崎の東側の浜を出艇直後にゲスト A のレスキュー活動に入った為に、楠はコンディションが悪い状況で 9 名のガイドングを一人で行うこととなった。残り 9 人のゲストの力量の詳細を把握できていない事が指示の遅れに繋がった。

⑤ レスキュー方法判断のミス

*楠 検証

ゲスト C のレスキューの際、岩礁から離れるため、ゲスト C をガイド艇のバウに捕まらせて彼女のカヤックをカウテールけん引したが、自分が漕艇し難い状況に陥った。岩礁から離れるも波の中で何度も同じ側にバランスを崩し沈脱に至った。泳者とカヤックの両方ではなく、優先順位の高い泳者（ゲスト C）のエスケープを優先し、ゲスト C のカヤックの回収を後にする判断ができなかった。また沈脱後も、カヤック 2 艇を保持したまま再乗艇を何度か試み、時間をロスした。ゲスト C のカヤックを放棄する判断が遅かったためセルフレスキューに 10 分近くかかってしまった。欲張って訓練したことがない方法でレスキューを試みてしまった。

*堀川検証

岸までの距離が近いことから、まずはゲスト C のレスキューを最初に行い、ゲスト C のカヤックは、ゲスト C の浜へ上陸させた後に行う判断をすべきであった。ゲスト D によるゲスト C のレスキューが今回のキーポイントであった。

⑥レスキューギア選択のミス

*楠 検証

けん引中にバランスを崩し、再三のロールでリカバリーするもバランスが回復出来なかった。原因は定かではないが、けん引にカウテールを使用した為かもしれない。ギアの選択を誤った。

*堀川検証

岩礁帯にいるゲストとカヤックの救出に関しての堀川の見解は、セルフレスキューファーストの視点から、カウテールではなく、テンションが掛からずともラインを解放することが可能なウエストマウント式のトゥーラインを使用する。またゲストが乗っていたカヤックの後部にゲストを捕まらせ、ゲストのカヤックをトゥーイングする。ラダー艇の場合は、ゲストの負傷を防ぐ為に、触先側にゲストを掴まらせ、後部のラダー側にトゥーラインを装着する。

カウテールはラインの距離が短く、うねりや波のある状況下ではカヤック同士が干渉する恐れがあるためにシーカヤックではトゥーイングに注意が必要。堀川はトゥーライン機能が内蔵されたカウテールと、ウエストマウント式のトゥーラインの2つを装備している。*個人的にはシーカヤックの場合、カウテールはパドルの流失を防ぐ為に使用することが多く牽引には使用することは殆ど無い。

【再発防止】

①'昼食休憩ポイントの判断

*楠 検証

今回上陸した劔崎の東浜には、①南西の強風で波が高くなる。②間口漁港の遊漁船の出入り。2点のリスクがある。

今後、南西風の強くなる予報の時の上陸ポイントは、間口漁港の北側の大浦海水浴場もしくは戸津浜にする。

*堀川検証

コラボツアーでのアウェイのフィールドに置いて、ガイド同士のリスクの認識が共有できていなかった。昼食時の上陸ポイントに関しては、コンディション悪化の認識から安全を優先して間口漁港を超えた北側の浜にすべきであった。

②'ゲストの力量の把握

*楠 検証

リピーターでなければ、ゲストの力量の把握は難しい。半日、静水を漕いでいる姿を見ただけで力量を見極めは困難。「出来るだろう」と過信するべきではない。今回のような2社のコラボツアーの場合、お互いのリピーターの力量を、事前にできるだけ情報共有するようにする。

*堀川 検証

パドルクエストゲスト9名に関しては、前もって身長/体重/年齢などを記載した名簿を楠と共有していたが、その名簿に各々の力量の情報をより多く記載すべきであった。また当日までに名簿を元にし、しっかりと力量を共有すべきであった。

③'レンタルギアの注意喚起

*楠 検証

レンタルカヤックと持参のスプレースカートの場合、外れにくい可能性ある。正しい手順で扱わないと外れにくい可能性あることを事前に注意喚起し、取り外しの確認も促す。

*堀川 検証

ゲストAのレンタル艇を安定性の高く、ラダーを装備したカヤックにすべきであった。

④'状況判断と指示

*楠 検証

判断の遅れに経験不足があった。フラットフラットでは楠ガイド1名でシングルなら5名で、スクールを行う。沈脱し要救助1名が発生した場合、レスキュー中に海況に応じて残り4名の安全を確保する判断する。今回2社のコラボで、ガイド2名にゲスト10名のグループだった。ゲストAのレスキューに堀川が対応した時点で、楠は9名の安全確保をしなくてはならないが、経験不足で判断が遅れてしまった。ゲストBのレスキューが発生する前に、エスケープの上陸指示を出すべきだった。

また、これは事前に想定できるリスクの把握が不十分だった。今後は、リスクを把握して優先順位を明確にすることにより状況判断の遅れを予防する。

*堀川 検証

昼食後の剣崎の東側の浜を出艇する時点でコンディションの悪化を把握していながら、メンバーに、今後のルートに於けるエスケープポイント（今回は間口漁港を超えた北側の浜）への上陸などの指示をしておくべきであった。プランB、プランCなどの計画変更をゲストへ把握させるべきであった。

⑤'レスキュー方法とレスキューギアの正しい選択

*楠 検証

岩礁近くで泳者とカヤックを両方回収しようとして難しい状況に陥った。状況に応じて優先順位を決めて、泳者の安全確保を優先して訓練したことがあるレスキュー活動をする。

風波がある状況で、風上側でカウテールを用いてカヤックをけん引したため側面で大きく風を受けて操艇しにくい状況に陥った。カウテールではなく、トゥーイングロープを用いてけん引する（推察）またけん引するカヤックが岩礁に引っかかった場合は、レスキューベルトを解放することも年頭に置く必要がある。いずれの方法も日頃訓練しておく必要がある。

*堀川 検証

ガイドが装備するトゥーイングの道具は、レスキューの状況に応じて数種類を装備するべきだと改めて認識。再乗艇後に恐怖心から再度パドリングができないゲストに対する対処方法とエスケープポイントまでの曳航を再度検証する必要がある。今回はシーガイド資格2人に対して10人のゲストというガイドレシオ的に運行規定の範囲内ではあったが、ゲストの力量などの認識や急激なコンディションの変化などを鑑みると、アシスタントを1人以上加えるべきであった。

上記3つの予防策と2つ対応策で、インシデントの再発を防止する。